

「暗闇の再評価」

牧師 望月達朗

季節の変化に応じて礼拝を彩る講壇の生け花は、生命の美しさを私達に届けてくれています。と同時に、毎週土曜日に教会へ来て下さり、花器選びから花の見え方、配置、配色に至るまで、試行錯誤しながら、お花を生けて下さる方々の思いがそこには映し出されています。美しさや喜びは、それが生み出されるまでに必要なプロセスを幾重にも辿って、私達に届けられているのだと感じています。

「ヒマワリはなぜ東を向くか」(滝本敦著、中央公論新社)という本の中に、ある植物学者のエピソードが紹介されています。この方は、高校、大学と生物学を学び、卒業した後も、朝顔の研究を続けていきました。彼女の疑問は「どうして朝顔は朝になって、あの大きな花をきちんと咲かせるのだろうか」ということでした。一定の温度のなかに置き続けても、あるいは四六時中光を与え続けていても、朝顔のつぼみはなかなか開きません。そして、彼女は気づいていきます。「アサガオの花が開くためには、夜の暗さが必要なのだ!」。昼の長さ(明期)と夜の長さ(暗期)の変化に応じて起こる生物現象は「光周性」と呼ばれています。日長の変化が、動植物のホルモン生成と分泌に影響しているのだと考えられていますが、とりわけ示唆深いのは、植物の花芽の形成を決定付けているのが、明期ではなく暗期の長さであるということです。夏を涼しくさせてくれるようなアサガオの鮮やかさ、季節を彩る見事なまでの花の美しさは、冷たい夜の時間と闇の濃さを経験しなければ生まれてこないものなのです。

先日、8月2~3日に行われた1泊2日の教会学校キャンプのことを思い出しました。子ども達を見ていると、初めはお互いに緊張していた関係性が、2日目の朝にはグッと縮まっていることに気が付きます。教師会の反省

のなかでは、「どうも夜のキャンプファイヤー、きもだめしを境に関係性が縮まったようだ」との意見で一致しました。これは、昨年の日帰りキャンプではそこまで感じられなかったことです。プログラムの内容も関係しているとは思いますが、昨年の日帰りキャンプとの決定的な違いは「夜」があったかどうかではないかと感じます。自分の、そしてお互いの成長に必要なのは、明るい光だけではなく、「夜」の暗さを共にすることだったのではないかと思います。

聖書の1ページ目を開くと、物語は暗闇から始まっていることがわかります（創世記 1:2）。その暗闇のなかに、光が創造されていきますが、「そして、暗闇がなくなった」とは記されません。神は「光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた」とし、闇をこの世に残しています。また、イエスは「悲しみは取り除かれる」ではなく、「あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる」（ヨハネ福音書 16:20）と語ります。まさか、「喜ぶために、積極的に悲しみなさい」ということではないでしょう。けれども、生きていく上で避けて通れない悲しみや憂いがあります。聖書は、その暗闇を消し去ることが出来るとは語りません。しかし、これまでの悲しみの深さがそのまま喜びの深さに変わる命の世界を私達に告げ知らせているのです。

「年々に わが悲しみは深くして いよよ華やぐ いのちなりけり」（岡本かの子）

「神のなされることは皆その時にかなって美しい」（口語訳：コヘレトの言葉 3:11）。神にあっては、暗闇もまた美しさや喜びを生み出すための大切なプロセスとなります。



新しい信仰の友 **中村佐保さん**（日本キリスト教団佐久教会より転会）

ペンテコステの礼拝の中で転会を許され、吾妻教会の群れに加えて頂けたことを深く感謝いたします。

1950年に信仰告白をし、主の僕として立たせていただいてより62年、神様の導きにより各地を転々といたしました。苦しい時、悲しい時、嬉しい時、その時々には神さまの導きとお守りの確かさを思い感謝の他ありません。どんな時にも祈り続ける事、祈りは必ず聞かれることを信じる事、ひたすら祈り続ける者の祈りを神様はきいて下さることの大きな恵みを沢山いただく事ができました。仕事の都合で礼拝に出席できない事もありましたが、み言葉を信じて今まで歩み続けることが出来ました。「わたしはまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である…わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。（ヨハネ 15:5）」

57歳の時、すすめられて「気づきのセミナー」に参加したあるプログラムの中で神様から示されたことの一つに「イエス様が今も私の足を洗っていて下さる」との信仰体験をしました。以来、「神様・イエス様は、わたしの近くにいつもいて下さり導いて下さっている」という言葉に表せない大きな支え、恵みとなっています。この世の旅路も残り少なくなってきましたが、生かされている今を大切にしていきたいと念じています。

—悔い改めと回心—

『讚美歌 21』 444 番

- 1、気づかせて下さい、知らずに犯した罪を
与えて下さい、罪を見つめる力を
立たせて下さい、あの隣り人の前に
そして立って下さい、主よ、わたしたちの間に
- 2、受けさせて下さい、あなたの真の命
聞かせて下さい、新しい愛の歌を
会わせて下さい、またあの隣り人に
そして立ってください、主よ、わたしたちの間に

3、歩ませて下さい、真の平和の道を
勝たせて下さい、不正と悪の世界に
生かして下さい、神の子どもたちとして
共に立って下さい、主よ、わたしたちの間に アーメン
「主を賛美するために民は創造された。(詩編 102：19)」

教会学校報告

校長 望月奈津子

いつも教会学校のためにお祈りとお支えをありがとうございます。教会学校では8月2日(木)～3日(金)に、夏のキャンプを行いました。昼間は温川キャンプ場にて、なぞなぞ探し、船&水あそび、スイカ割りを楽しみ、夜は教会にて夕食作り、キャンプファイヤー、きもだめしを行いました。2日目は河原で礼拝をした後、木のペンダント作りをしました。途中、雨雲が広がり、夜のキャンプファイヤーが出来なくなりそうな天候となりましたが、子ども達とお祈りをしたところ、雨は降ることなく、全てのプログラムを子ども達と楽しく行う事が出来ました。子ども達にとっては、日常の中に神さまを感じ、同じ神さまに生かされている友だちとの交わりを深めることが出来た2日間になったのではないかと感じています。キャンプのためにたくさんのお祈りと献品をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。今後も教会学校のためにお支えをよろしくお願い致します。

吾妻教会今後の主な予定

- ★8月19日(日) 女性の会修養会…井殿園先生に講演していただきます。
- ★9月9日(日) 交換講壇…荒谷出先生(共愛学園宗教主任)が説教を担当されます。
- ★11月11日(日) 教会バザー…毎年恒例の教会バザーを行います。

～どうぞ覚えてご出席ください～

日本キリスト教団 吾妻教会 (創立 1889年5月7日)

〒377-0801 群馬県吾妻郡東吾妻町原町 444-9

牧師 望月 達朗

TEL0279-68-4730

<http://www5.ocn.ne.jp/~agatu-ch/>

伝道師 望月 奈津子